
スタイルの表現研究

-拓本と印刷による視覚化-

Research on Expression of 'Style'

-Visualization through Rubbing and Printing-

■ 張 シキ Zhiqi ZHANG

愛知県立芸術大学大学院 春田登紀雄研究室

Aichi University of the Arts

■ キーワード：スタイル、表現、拓本技法、印刷、視覚化、プロッタージュ、テクノロジー、ファッション

はじめに

“Mode passes, style remains.” 「流行は過ぎ去り、スタイルが残る」とは、ガブリエル・シャネルの名言である。時代の変遷とともに、市場の需要供給は常に変化し、そのために製品も更新されている。古い製品の生産が終了して、新しい製品が登場する。しかし、同時に標準的な型や様式として長に残りつづけるプロダクトがある。

本研究における「スタイル」とは、時代の影響を受けずに変わらない存在と定義する。その時々流行や社会的変化の中で残るスタイルを捉え、ものの不変な魅力を可視化していくことを目指す。

1. 表現テーマの選定

人の生活を豊かにするために、テクノロジーが進化し続けてきた。さらに人工知能や電気自動車などの登場によって、今は多くの技術の発展速度そのものが向上している時代である。一方、ファッションは、ある時代・年代に広く世間に共通して行なわれる、時代を超えて周囲の社会環境によって変容するものである。本研究は、ファッションとテクノロジーを表現テーマとして選定し、それらの絶えず更新される2つの分野で残す製品・商品のスタイルの表現研究を進める。



図 1. 製品・商品の選定

2. テクノロジー分野

2022 年度には、テクノロジーの分野の一例として自動車のエンジンを取り上げた。エンジンのデザインを様々な角度から視覚化することで、親しんだスタイルに新たな視点を創出することを目的とした。

3. 2022 年度の試作と検証

3.1. 拓本技術の研究

伝統的な器物の転写の方法の1つ、使っている元々中国で生まれた「拓本技術」は、水で和紙を対象物の金属に貼り付けて、対象物の凹凸に紙を食い込ませ、出た部分にタンポで墨を叩くことで、像を紙の表面に写し取る技法である[図 3]。また、「魚拓」や「プロッタージュ」などという素材が違って紙の表面にイメージと図柄を写し取る技法も存在している。



図 2. 拓本技術

3.2. 検証

より多様な表現を応用し、効果的に伝達する方法を明らか

にするため、同じ部品だが、和紙の種類、墨の種類、素材の種類と紙の厚さ・触感・色により検証を進める。

1つ目は、伝統紙奉書丈長判の用紙と樹脂墨を使用し、湿拓技法で作品化した[図3]。もう1つ目は、MBM木炭紙厚口と鉛筆2Bを使用して、プロッタージュ技法で行った[図4]。しかし、それらの検証結果を通じて、一過性の表現で、制作の偶発性が高い表現と判断した。

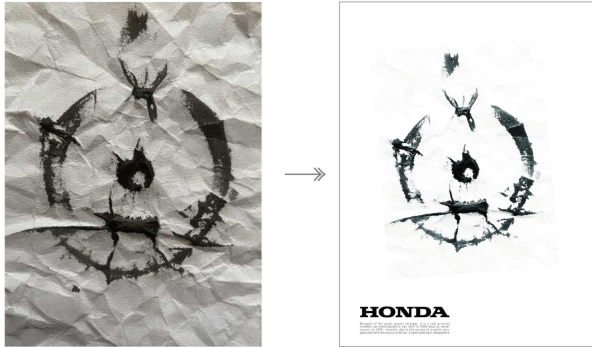


図3. 湿拓法の試作(墨使用)

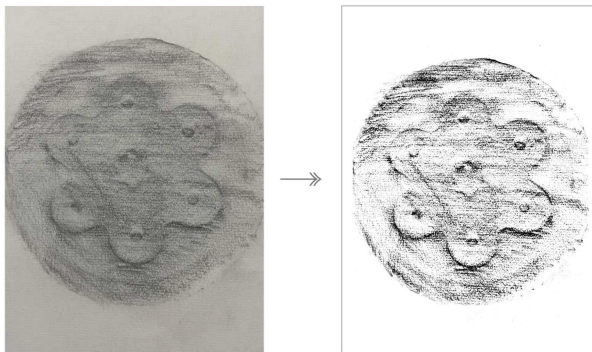


図4. プロッタージュ技法の試作(鉛筆2B使用)

1つ目は、美須紙薄口 2.1-2.9 刃とパステル黒色を使用し、プロッタージュ技法で作品化した[図4]。より湿拓技法の試作[図5]、その検証結果は、部品の形の再現性が高く、輪郭、エッジ、濃淡や厚みなどが表現された試作を得ることができる。

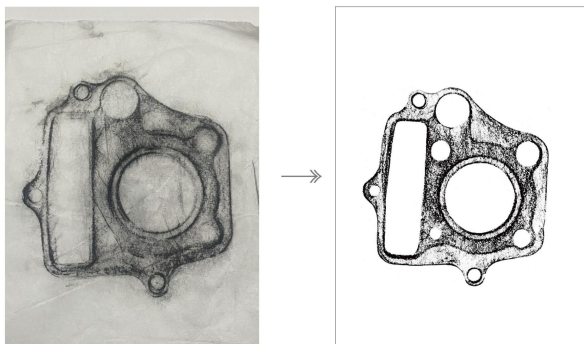


図5. プロッタージュ技法の試作(パステル黒色使用)

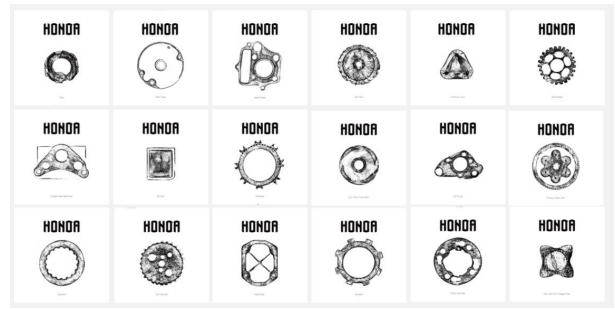


図6. 2022年度後期試作作品

2022年度の検証結果

より前述の試作1[図5]、プロッタージュ技法の検証を通じて、リアルなイメージと図柄を再現し、部品の形状や質感など感じられて、効果的にスタイルの魅力を伝えることができる。プロッタージュ表現技法を選定した。

4. ファッション分野

2023年度には、ファッションの分野で、その一例としてデニムのリーバイス501の1944大戦モデルを取り上げた。デニムの各パーツを拓本による視覚化することで、変わらないものをスタイルとして、不変な魅力を可視化し伝えることを目的とする。

5. リーバイス501に関する考察

リーバイス501の「5」は品質の証しという意味で、「01」は第一号の証しである。1873年5月20日「衣料品のポケットの補強にリベットを使用する方法」に関する特許を取得するため、この世に初めて“ジーンズ”が誕生した。

1942年、第二次世界大戦に伴う物質統制開始した。物質節約のため、様々な簡略化がよぎなくされた。そして、大戦モデルはそのような時代に誕生された。当時のみ、見られた特異なディテールであり、そこには統一性のない多種多様なタイプが存在する。1944大戦モデル[図7]は、現在の501の基本スタイルを形成したと言われている。



図7. リーバイス501の1944大戦モデル

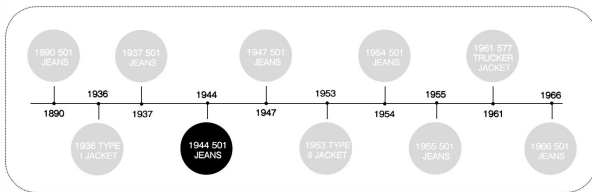


図 8. リーバイス 501 のタイムライン

数多くあるリーバイス 501 の中でもファッションアイテムとして位置付けられ、簡略化されてもなおリーバイス 501 のスタイルとして認識できる。1944 大戦モデルを選定した。

5. 1. 1944 大戦モデルの分解

数リーバイス 501 1944 大戦モデルデニムを購入した後、分解した[図 9]。

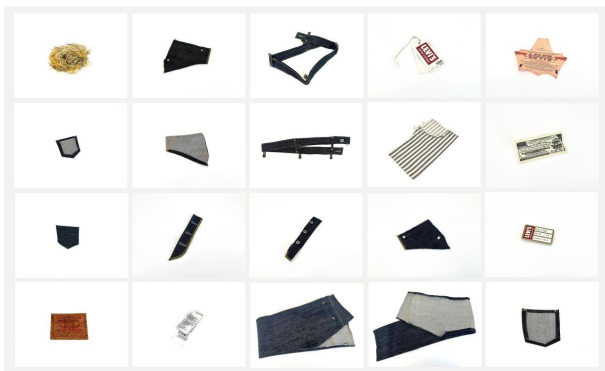


図 9. デニムの分解後の部品構成

5. 2. 2023 年度の試作と検証

2023 年度には、ファッション分野でリーバイス 501 の 1944 大戦モデルの部品で 3 種類の表現検証を実施した。

1 つ目は、美須紙薄口 2.1-2.9 刃と鉛筆 2B を使用し、プロッタージュ技法で作品化した[図 10]。その検証結果を通して、部品の面的にのみ表現され、形の再現性が低く、スタイルとして伝えることができない。

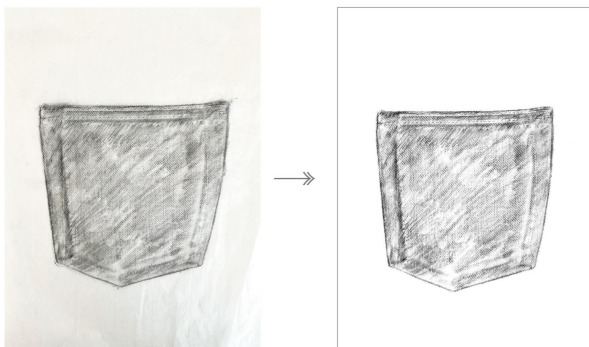


図 10. プロッタージュ技法の試作(鉛筆 2B 使用)

1 つ目は、美須紙薄口 2.1-2.9 刃とパステル青色を使用し、プロッタージュ技法で作品化した[図 11]。顔色を入れることで、

かえって画面の誤解性が高くなって、異なるイメージを想起させることで、本物とも差異がある。色の課題があるので、スタイルとして伝えることができない。

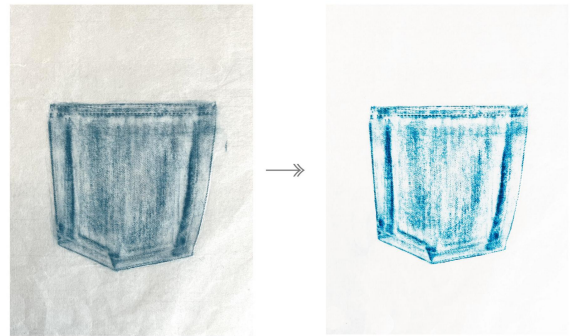


図 11. プロッタージュ技法の試作(パステル藍色使用)

1 つ目は、美須紙薄口 2.1-2.9 刃とパステル黒色を使用し、プロッタージュ技法で作品化した[図 12]。より素材のパステル藍色、パーツの形状の再現性が高いと同時に、輪郭、厚みや質感などが表現することもできた。

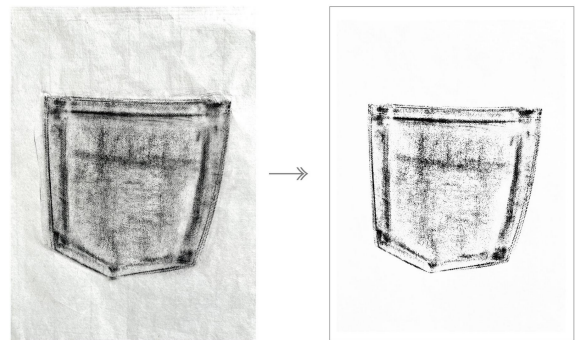


図 12. プロッタージュ技法の試作(パステル黒色使用)

検証結果

以上の仮説検証から、よりスタイルとしての的確に伝えるため、写真やイラストレーションなど手法で表現できない。拓本の表現で、「部品の形状」「細かな立体感」「わずかな素材の差異」「見えない形の可視化」や「透明視」などを具体化できる。スタイルの不変性を伝えるには、形と立体感、質感に特化して表現できるために、プロッタージュ技法でパステル黒を選定して最終作品化した。

5. ポスター開発

スタイルを伝える媒体コンテンツ構成案を実施した。「デニムの世界」をテーマとして、分解された Levi's 501 の 1944 大戦モデルのパーツは原寸大のサイズで B1、B2、B3、B4 サイズのポスターを展開した。B1 サイズ 2 点、B2 サイズ 2 枚、B3 サイズ 8 枚と B4 サイズの 6 点で、全部 18 点のポスター開発を展開した。各パーツのキャプションは、グローバルに伝達する計画があり、今後の研究を続けるため、英文で作成した。[図 13][図 14]。



図 13. 全体型ポスター作品



図 14. 部品ポスター作品

6. 印刷による可視化表現

スタイルの表現は、和紙で記録するだけではなく、世の中に多くの人に伝えるため、印刷の量産を目指す。

作品を量産するため、オフセット印刷を行った[図 16]。デジタル化の発展、印刷期間の短縮やインクジェットの高台頭などにより、現在、平版校正機が少なくなっていく。一方、最近の傾向として、本機で色校正をする場合が多くなってきている。ただし、本機で色校正するのは高コストというデメリットがある。一方、新たに登場した「プルーフジェット」とは、インクジェット方式を使った本紙色校正である。以前はインクジェットに対応する用紙でなければ印刷することができなかったが、技術の発展により、油性オフセット印刷の紙に対応できるようになり、本紙色校正が可能になった。

本研究の印刷表現は、インクジェットで確認できないので、プルーフジェットで確認した。

Proof Jet 780 MARKII 印刷機を選定した[図 15]。「モフル バニラ 110g」、「ブンペル ホワイト 175g」と「TANT N-9 180g」3種類の紙で印刷を試した。



図 15. Proof Jet 780 MARK II 印刷機

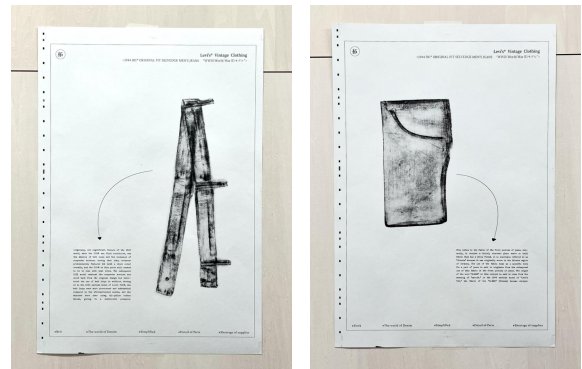


図 16. オフセット印刷による可視化表現

おわりに

2023 年度前期では、主にファッション分野にデニムを中心に拓本による可視化表現研究を行った。拓本に様々な技法によって実験した。それらの試作作品を通して、スタイルとして選定した商品・製品と時代背景に合わせた表現にすると、ものたちの不変な魅力をより説得力のある作品を得ることができる。2023 年度後期では、主に印刷による可視化表現研究を行った。世の中多くの人にスタイルの不変性を伝えるため、今後も国際的な視点から研究を継続することを目指す。

注、引用

・現在とほとんど変わらないデザインと構造を、既に 150 年前から完成させていた 501®、
 〈https://www.levi.jp/2023ss_150th_history.html〉、OCEANS 2023 年 5 月号にて掲載

参考文献

・藤原裕、『日本人が見出したヴィンテージの価値 教養としてのデニム』、角川文庫、2022
 ・藤原裕、『LEVI'S® VINTAGE DENIM JAKETS TYPEI/TYPEII/ TYPEIII ([テキスト)]』、ワールドフォトプレス、2020